



^ 13
3330
6



へ13
3330
6

武通陽柳文庫卷之六

目錄

- 一 一ツカ又云ツカ侍侍
- 系 又云又叔叔氏氏



武通陽柳文庫卷之六



目錄

- 一 一ツカ又云ツカ侍侍
- 系 又云又叔叔氏氏
- 一 長助又云長助侍侍
- 系 後北三平又云後北三平侍侍



二十八年八月九日
本大學出版部 贈

武直陽柳文庫一巻之六

ツラとよま
一口又とが侍

ツラとよま
兼又と親及指自の半

ツラとよま
長一一口又ととり小親者なり

ツラとよま
衆のしきふしを記すなりしは

ツラとよま
の國各儿部ち恒存ありし

ツラとよま
村の御士の侍ありて同苗

とつふえ年 後色 及び 陽 及び 文
の又 在 馬 的 處 是 自 心 を 加
り ぬ ぎ じ 子 の 心 又 其 處 の 心 を
き ず ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
又 其 處 の 心 智 を つ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
又 其 處 の 心 智 を つ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
又 其 處 の 心 智 を つ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
又 其 處 の 心 智 を つ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
又 其 處 の 心 智 を つ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
又 其 處 の 心 智 を つ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
又 其 處 の 心 智 を つ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
又 其 處 の 心 智 を つ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
又 其 處 の 心 智 を つ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ

くわ 敷 け 日 何 々 々 々 々 々 々
馬 喰 所 一 切 着 一 切 着 一 切 着
法 者 一 切 着 一 切 着 一 切 着
名 不 名 不 名 不 名 不 名 不 名
日 年 一 切 着 一 切 着 一 切 着
解 名 一 切 着 一 切 着 一 切 着
公 中 一 切 着 一 切 着 一 切 着

つらつて形を家おを奪く
派く一々舞布一巾柄少々
御御指箱の着板を也

つら生妻少しつら

一 兵佐舞馬流柳生流平田流

中家流新書流為流

一 捕手竹内流片山流

一 御御早見流樂志流富流

一 徳岡上流と澤流

一 持御水細流片山流

一 馬洲と浮流と事流と事流

右を印云りしつら

ハ出流くハ出流しハ出流しハ出流し

ハ出流くハ出流しハ出流しハ出流し

御御一切指南

御御一切指南

日下流山 一〇 又六

るに紅あけ今人くさく笑
もまおとく断がうりまら
かつ日つこぐとあひくら
い富もくぐまの一本あひ
こし一書をうら意れ
もはあ一たみちうらう
てもお件をひま入しと
ト一書一うらの源

まぐらふまき
やむ一口又ちとりありのまは
の達んあしきしそや
て指すのくあみちが
ふとちう準をたのし金人
を筆付めくそのしちうら
ふあましとくしんあま
しとあひ心をしきし
とあひ心縁をのしめ又あが

中子とちりり今往をりつ
そつゆ中さきくとりり入ればえ
半彩歌をちもさきしんみ
ゆく多物がゆよけあまらうそ
あつ身くごそくまらり

お会具物又さきおをすも

杉北三年又さき居場くあらう

あも兵物ん又さきまら白くと
ついでりりーなれば又さき
を笑さきりらあらと記具物
よさき一各所の山知人な人を
かねちちねしもの記物百人
何とぞ奴が居場をあらはし
集がつやをことぐそ
なましーあ

り少や 家もなうあ 御んおも
つてもり身ぶと 依しれた 依くを
はに 依れおもり ば 依り 依
ごつく そういふ ごとく と 程ぐ
あつてを みる こと あそり した
まうり 今しん 一い ち 依の 一
この 依 依 依 依 依 依 依
おま 一 一 一 一 一 一 一 依の 依

そ 御も 依の 依 依 依 依 依
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
あや 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
ごう 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
旧の 者い 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
ら 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
ま 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



どし家業の足場に移御三年
也徳をたうて金くつしおとす
早業四くまきり 盤島
多うもりきりて白く一ち去
の足場めそはきりたのよしを
うう後りを治るるこそん
又ちよるるは元ざら客所
の足場めそは金くつしおとす

病氣あめり幸ひよ三年も代
物多下といはれくもきり時
ちりり楽をんをたすす
は金くつし足場自物と清わ
まきりわはつあうら振うばも
生ししとまきりしりら
けりるものりしりら
先者あつたのりしりら

この時をらんきひうらむ
一歩く入るくは片端はひきまぐ
知つたまらうらむは血染めの三平
うらむうらむの片端はひきまぐ
しを時をうらむくは合衆を
は果さしよつと命しとこ
まらねは又た命まらまら
この片端はひきまぐ

早く明日おとあひり
てまらうらむを定りて
まらや片端はひきまぐ
まらうらむは命まらまら
くまらうらむは命まらまら
まらうらむは命まらまら
まらうらむは命まらまら
まらうらむは命まらまら

小海^{あま}のうらあうら^{うら}のぬ^{うら}日
もま^まし^まく^くも^もう^うて^てる^るの^のま^まの^の
山^{やま}の^の海^{うみ}を^をそ^それ^れば^ばそ^そう^うち^ちど
弱^{よわ}く^くし^しま^まさ^さち^ちう^うそ^それ^れで^でも^もま^まま^まさ
う^うの^の時^{とき}の^の用^{もち}は^はま^まさ^さや^やあ^あく^くま^まを
米^{こめ}を^をし^しと^との^のし^しら^らみ^みま^まら^らが
一^{いっ}日^{にち}の^の海^{うみ}は^はい^いろ^ろぬ^ぬり^りま^ま可^か合^あは
し^しも^もあ^あら^らる^るこ^こと^とち^ちし^しと^とあ^あら^らは^はし

て^ても^もあ^あら^らる^る今^{いま}の^の三^{さん}年^{ねん}指^{さし}針^{はり}
ま^まら^らる^るも^もあ^あら^らる^る同^{どう}名^なち^ちう^うの^の海^{うみ}
海^{うみ}を^をう^うら^らる^る年^{ねん}く^くの^のあ^あら^らは^はし^しが
ち^ちし^し何^{なに}も^もと^と海^{うみ}針^{はり}を^をま^まら^らる^る
海^{うみ}が^がま^まら^らる^る海^{うみ}を^をま^まら^らる^るが
し^しと^とま^まら^らる^るし^しと^とあ^あら^らは^はし^しま^まら^らる^る
身^みち^ちつ^つの^の海^{うみ}針^{はり}を^をあ^あら^らは^はし^しつ^つま^ま
ま^まら^らる^る海^{うみ}針^{はり}一^{いっ}ち^ちあ^あら^らは^はし^しつ^つま^ま

くく 御上の祐業住業のるぐひ
ちん 勅の年節まらご
らい口も同依陪ハ存御極の金の
九統くくあわも 勢子極く小
情もよりのとせ中あくと所子世
了先創出ああきねら辰人ふ
以思よか家を笑あよん 山本
易物あらるくしてんもしく 家虎

あは日年ハあるうらと 王ら又
あも 美くしりのこれろくんそ
あは 云照山神ころ名ぐあめく
あまの 岩戸よこりりあと死八百
下 神これを取きりよと死な
神 ちとりあをとりあの神の年
を 希小まけのまらりのを白を
伊 授きしるりののし云麻巻

よん九なりもつうしとありよふそく
四音板よりうら年存のうねを
まことし一回うらひてをくまむ
よ舟の通うちねはゆよらうと
いんぐよまむくまむぬりく
存多しうらう又ちがや子うら
あり伊合をのうねをよふまむ
にをちうらうのうらうまむとむ

ののPりはゆん人ゆはそむし
おのよまむうらうらうらうらう
まむうらうらうらうらうらう
い用儀のうらうらうらうらう
まむよ上儀のうらうらうらう
三年のうらうらうらうらう
若もちうらうらうらうらう
肩のうらうらうらうらうらう

こころのまはるく 眼をむく
うしろより みるまをきく
ら

侍より くのたに
あまの目より みるまを
あまのまはるく みるまを
あまのまはるく みるまを
あまのまはるく みるまを
あまのまはるく みるまを

あまのまはるく みるまを
あまのまはるく みるまを
あまのまはるく みるまを
あまのまはるく みるまを
あまのまはるく みるまを

西に陽柳文庫を乞ふ

